

名古屋芸術大学 芸術学部 芸術学科 芸術教養領域 リバラルアーツコース

2024(R6)年度 特別選抜 エキスパート入学試験 レクチャー メモ用紙

受験番号	氏名
------	----

※この用紙は試験終了後、回収します。

レクチャーについて、あなた自身の判断で自由にメモしてください。裏面を使用しても構いません。メモ内容は採点しません。

* 本試験では、このレクチャーおよび、レクチャー終了後に配布する課題文をふまえたうえで、レポート執筆します。その後、口頭プレゼンテーション、ディスカッションをします。すべての試験中、スマートフォン等の通信機器は鞆に入れたままにしてください。

名古屋芸術大学 芸術学部 芸術学科 芸術教養領域 リベラルアーツコース
2024(R6)年度 特別選抜 エキスパート入学試験 課題文

受験番号	氏名
------	----

※この用紙は試験終了後、回収します。線を引くなどのメモは自由です。メモ内容は採点しません。

下は、平成元年の高校生の頃から同人イベントにサークル参加し、商業誌でも人気を博し、ドラマ化された『大奥』、『きのう何食べた?』などのマンガ作品でも知られる、よしながふみ氏がインタビューに答えたものです。文中で出てくる「コミケ」とは大規模な同人誌即売会の「コミックマーケット」のことです。

*本課題文用紙に自由にメモを記しても構いません。

*本試験では、前のレクチャーおよび、この文章をふまえたうえで、レポート執筆します。その後、口頭プレゼンテーション、ディスカッションします。すべての試験中、スマートフォン等の通信機器は鞆に入れたままにしてください。

<前略>

コミケは当時から最大のイベントだったので、はじめて申し込むには規模が大きすぎて腰が引けたんですよ。

<中略> 同じ話ができる仲間を探すには、やはりコミケに行くかと思いました。なにしろコミケには、どんなニッチな趣味の本でもありますからね。それで、すぐにコミケに申し込みました。

<中略>

<コミケのサークル参加の申込手続きは、かなり煩雑で> 冬コミに申し込もうと思ったら、その前の夏コミで申込書を手に入れなければならないし、申込期間も当時は3日間くらいしかありませんでした。しかも抽選。あらゆる書類に自分の住所を5箇所くらい書く必要があって、この事務手続きでふるいにかけてしまう人もいるだろうな、と。申し込み金の振り込みとか、とにかく郵便局に行く回数が増えました。

<中略>

コミケでついに同じ『ベルサイユのばら』ジャンルのほかのサークルの方と出会えて、話しかけてくださいました。年上のお姉さまばかりで、学生の私を見て「あなたが描いているの!？」って。 <中略> そうやって <中略> 同じ作品を好きな方々と知り合うことができました。

<印刷した100冊の同人誌は> 何度かサークル参加しているうちに少しずつ売れていき、何年かかけて完売できました。そうすると、ポツリポツリとお手紙をいただくことがあったんですよ。自分の描いたマンガの感想のお手紙はものすごく脳内麻薬が出るものなんだな、ということを知りました。「私のマンガを待っている人がいる!」という勘違いが起きてしまうんです。待っていないのに。

<中略>

<コミケ参加からプロ作家になった人が多数いると問われ> ただ、同人を描いていた人がみんなプロを目指していたというわけではなくて、どれだけカリスマ的な人気があったとしても、ご本人が辞めると言ったら終わってしまう世界です。とても好きなサークルさんがいたんですけど、あるとき、同人誌のあとがきに「就職が決まったのでこれが最後です」と書いてあって……。

<中略>

才能とやる気ってまったく比例していませんし、好きなキャラの好きなストーリーを描く二次創作の楽しさと、自分

でキャラもストーリーも考える商業作品は、まったくの別物ですからね。「なんで編集者に指図されなきゃいけないんだ」という矜持を持って活動されている方もいました。なので、同人誌で人気がある順にプロになったわけでもないし、同人誌での人気がプロでの売れ方と比例するわけでもないんです。

<プロになることを意識したのは> BL誌が世の中にできてからですね。それまでは女の子の人がマンガを描いてプロになるには、少女マンガ誌に投稿するしか道がなかったんです。つまり10代の高校生が主役の「ボーイミーツガール」を16ページで描けないとプロにはなれないと思っていました。

<同人誌の内容を載せる媒体がなかったため> 二次創作でBLをやっている私は基本的にプロになれないんだろうな、と思っていました。当時はまだ「BL」という言葉はありませんでしたし。 <後略>

<中略>いろいろな出版社からBL雑誌が出るようになり、「BL雑誌なら私にも描く場所があるんじゃないか」と思えるようになりました。

<中略>

<プロデビュー後も同人活動を続けた理由を問われ> プロをきっかけに辞める人は少なかったです。他の作家さんも同人も商業も両方されていました。最近、同窓会に近い感覚にもなってきましたね。年に一度、もしくは半年に一度会ってごあいさつして、新刊を交換してお互いの近況を知る、みたいな。近況と言っても「ええっ、いまそのジャンルなんだ！！」とかそんな話ですけど。ひさしぶりに懐かしい人に会うのもうれしいです。

<コミケがお盆と年末開催であることを言われ> でも暑いし寒いし「よくまあ、そんな時期にやってくれるもんだよ」「なんでゴールデン・ウィークとかスポーツの日じゃないんだ」とはずっと思ってますけどね(笑)。

<中略>

買ってきて下さってる読者さんとの交流もとても大切です、現場での交流がなかったら、本当になんのためにやっているかわからなくなってしまいそう、と私は思っています。手売りがまったくできなくなる日が来たら、「通販だけで売するために描くのなあ……」という思いは正直あります。コロナ禍でもがんばって開催してくれたコミケのスタッフさんたちにも感謝の気持ちでいっぱいです。

<中略>

よくサークルのスタッフさんたちと「子どもの頃のお店屋さんごっこみたいで楽しいよね」と話しています。終わったあとに「今日はこんな人が来てくれたね」とか「もっとああすればよかったね」と打ち上げで話すのも楽しい。20年以上の付き合いだけどイベントのときしか会わないからなんの仕事をしているのかも知らない不思議な間柄です。「いま何にハマってるの？」みたいなオタ話だけで時間がいっぱいになっちゃうので。コミケがなくなると会えなくなってしまうから、それはイヤですね。

<暑い夏と寒い冬の開催のコミケに参加すると過酷だと言われ> それは本当にそうですね。こんなに文明が発達したはずの世の中で、暖かいところに避難することもできず、ずーっと寒風に吹かれて寒さに震えているなんて「なんなんだ！」って毎回思います。床のコンクリートが寒いから段ボールを貼り付けるとか、そういう知恵ばかり身につきます。まわりもだんだん年齢を重ねてきて、健康上の理由で辞める、という人も増えてきましたからね。私も今は参加していない友だちから「よくやってるよね……」と言われたときには、自分でも「たしかにな……」と思いました(笑)。

よしながふみインタビュー 「BL 同人誌」のひそやかな情熱

週刊文春エンタ+ 特集『80年代！ 少年マンガの熱狂』、文春ムック、2023、文芸春秋 より引用

(<>内、省略は引用者による)

名古屋芸術大学 芸術学部 芸術学科 芸術教養領域 リバラルアーツコース

20(R6)年度 特別選抜 エキスパート入学試験 ディスカッション メモ用紙

受験番号	氏名
------	----

※この用紙は試験終了後、回収します。

ディスカッションのテーマ：

あなた自身や、あなたが支援したいマンガ家や芸術家などの作家の作品の制作や、作品頒布において必要なこと

ディスカッション時に、あなた自身の判断で自由にメモしてください。裏面を使用しても構いません。メモ内容は採点しません。